

千葉県図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立されました。

このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行しております。

平成25年度講演会の報告

千葉県生涯学習センターの大研修室を会場に、当協議会主催の講演会を開催し、一般公募の方を含め51名の方に参加していただきました。

今回は「東日本大震災 図書館活動から見えてくるもの」をテーマに、先の東日本大震災において被災した図書館の復興活動に従事されている、東松島市図書館〔宮城県〕副館長の加藤孔敬氏をお招きしての開催でした。

被災後の図書館の復旧だけでなく、図書館活動を通じた震災復興支援活動の現状を伺うことができ、非常に有意義な講演会となりました。



◀ 千葉県生涯学習センター ▶

日時	平成25年11月5日（火曜日） 午後2時00分～4時00分
会場	千葉県生涯学習センター 大研修室
講師	<small>かとう よしたか</small> 加藤 孔敬氏（東松島市図書館 副館長）
テーマ	東日本大震災 図書館活動から見えてくるもの



◀ 講演中の加藤副館長 ▶

講演会「東日本大震災 図書館活動から見えてくるもの」に参加して

千葉市中央図書館 細野稔貴

東松島市図書館副館長の加藤孔敬氏を講師にお迎えし、「東日本大震災 図書館活動から見えてくるもの」をテーマに、加盟館館員と参加申込いただいた多数の方々のご参加のもと、平成25年度の千葉県図書館情報ネットワーク協議会講演会が開催されました。

講師の加藤副館長は、被災地の読書支援や震災アーカイブ（ICT 地域の絆保存プロジェクト【東日本大震災を語り継ぐ】）を開設されたほか、図書館支援のコーディネーターとしてもご活躍されています。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、各地に甚大な被害をもたらし、本協議会の加盟館においても、建物の損壊や、書架から大量の資料が落下するなど多くの被害が発生しました。今回は、震災から 2 年 8 か月が経ち、新聞等の報道でも被災地の状況を目にする機会が減りつつある中で、被災地の図書館の体験等を伺い震災への備えなどを考えるため、震災時における図書館活動、図書館の復興への取り組みなどを中心にご講演いただきました。

東日本大震災で東松島市は、震度 6 強が観測され、市域の 65%が津波により浸水しました。この浸水割合は、被災地域で最も高く、震災発生当夜は人口の半数近くが避難を余儀なくされたとのこと。加藤副館長も東松島市の職員の一人として、避難所の運営に尽力され、物資の配給・清掃・受付などを担当されました。

当初は混乱を極めた避難所も、時間が経つと、食料は足り寒さもしのげるようになります。しかし、避難所生活を送る高齢者や子どもたちは何もすることがなく、何日も前の新聞を何回も何回も読むほかない状況だったそうです。

こうした状況下で、図書館に対し、メンタル的な部分で支援をしてほしいという要望が寄せられるようになりました。そこで、東松島市図書館は、全国から寄贈された本を活かし、平成 23 年 5 月のこどもの日に本を配るイベントを実施されました。

講演の中で加藤副館長がお話になられた「みんな本が読みたかったんだ。心に余裕を持ちたかったんだ」と改めて気付かされたというお言葉のとおり、このイベントは被災された方にとって、大きな心の支えになったことでしょう。その後、東松島市図書館は、関係者のご努力により、平成 23 年 6 月 1 日から通常どおりの開館を実現されました。また、同年 10 月には図書館まつりを開催したほか、全国から寄贈された本を仮設住宅に配布し、さらに、公益財団法人図書館振興財団からの支援により、10 か所の仮設住宅に図書室を設置するなど、復興へ向け着実に前進されています。

また、図書館入口へのお礼のプレート設置や、ラベンダーのにおい袋を礼状に同封されるなど、支援をしてくれた方々への感謝の気持ちが伝わる素晴らしい取り組みもご紹介いただきました。

更に、前述の震災アーカイブで、映像などにより「被災者の声」の保存に努められておりますが、現在 100 名近くの被災者の方の貴重な証言が集まっているとのこと。映像の一部を拝見しましたが、震災発生当初の状況など生々しい証言が記録されています。また、津波の記録映像には、増水した河川を大量の瓦礫などが流れていく緊迫した様子や津波の恐ろしさが克明に記録されており、被災地の状況をつぶさに理解することができましたので、図書館として震災から復興までの歩みを記録することの重要性を再認識しました。

今回の講演会に参加し、平時からの備えの重要性や、支援物資は現地で購入するといった被災地への効果的な支援方法などを、改めて学ぶことができました。また、加藤副館長から震災時の心得として、「発生当初はむやみに家族を探さない方が良く、必ず生きてると信じる。そのためには、平日頃のコミュニケーションが大事」とのお話をいただいたことが大変印象的でした。

遠路遥々お越しいただき、貴重なお話をさせていただいた加藤副館長に感謝を申し上げますとともに、震災で亡くなられた方々のご冥福と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げ、講演会報告といたします。



◀ 齊藤誠一会長 ▶



◀ 講演会の様子 ▶

加盟館紹介展の報告

事務局（千葉市中央図書館）

千葉市図書館情報ネットワーク協議会について知っていただき、加盟館を多くの方に利用していただくことを目的に、平成18年度から「加盟館紹介展」を実施しています。

今年度は、10月26日（土）～11月5日（火）の期間、千葉市生涯学習センター1階のアトリウムガーデンを会場として実施しました。

期間中に来館された約3万5千名の方々の中には、各館の工夫を凝らした展示をじっくりとご覧になる方や、加盟館が用意したパンフレット等を手にとる方も多く見られ、大変好評のうちに終了することができました。



《紹介展の様子》



《協議会紹介パネル》



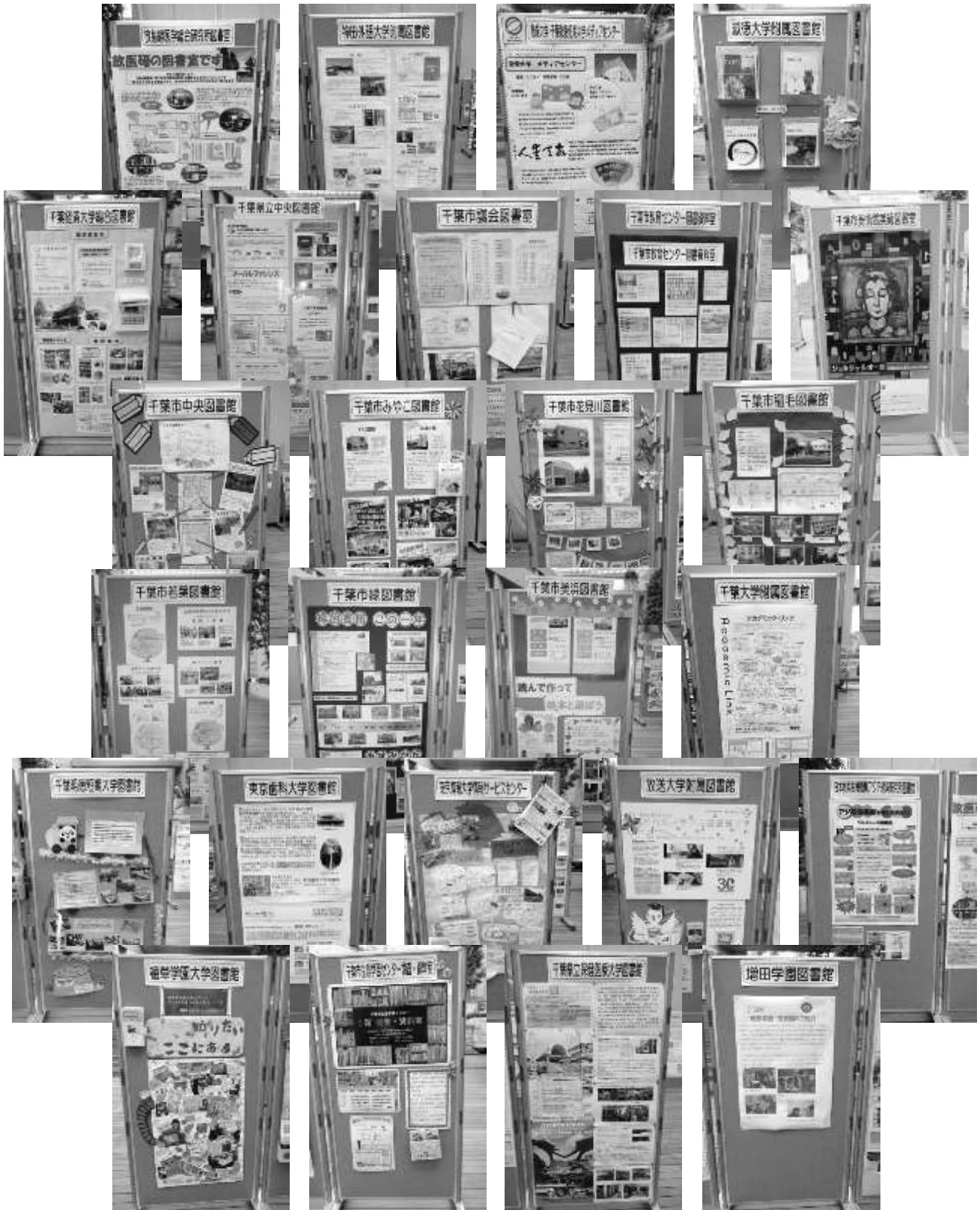
《パンフレットコーナー》

講演会関連の展示を行いました

加盟館紹介展実施期間中、講演会に関連して、会場の一角を使用し、津波による被害を受けた顕微鏡や本などの資料や、東松島市における読書支援活動を紹介したパネルの展示を行いました。



○各加盟館の展示パネル



ネットワーク通信 No.41

2014年 1月 10日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-7-7

TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074

◇千葉市図書館情報ネットワーク協議会ホームページ <http://www.ccal.jp/>